

# The Partner for Success

第44期  
中間ビジネスレポート  
2019年4月1日～2019年9月30日

	当第2四半期 [2019年4月 1日から 2019年9月30日まで]	前第2四半期 [2018年4月 1日から 2018年9月30日まで]	前期 [2018年4月 1日から 2019年3月31日まで]
売上高	13,705	12,477	26,787
経常利益	1,826	1,395	3,191
親会社株主に帰属する純利益	1,419	984	2,113
1株当たり純利益	61円4銭	42円34銭	90円88銭
総資産	48,440	45,580	47,190
純資産	34,493	32,411	33,050
1株当たり純資産	1,465円39銭	1,376円00銭	1,402円49銭

(注) 1株当たり純利益は期中平均発行済株式総数により、1株当たり純資産は期末発行済株式総数により算出しています。  
なお、自己株式数は控除しています。

(単位:百万円)

## INDEX

連結財務ハイライト	1
株主の皆さまへ	2
特集 システムズエンジニアリングの図研!	3
Zuken Innovation World 2019 YOKOHAMA Report	5
四半期連結財務諸表	7
Zuken in Worldwide	9
インフォメーション	10

## いち早く次世代のモノづくりを見据えて システム設計領域を軸とした成長戦略を推進します。

株主の皆さまには、平素のご厚情に心より御礼申し上げます。第44期中間ビジネスレポートをお届けするにあたり、業績および業務活動に関して、ご報告いたします。

### 業績について

当中間期は、日本や米国で緩やかな景気回復基調が続いたものの、米中貿易摩擦の長期化や英国のEU離脱問題への懸念などから、先行き不透明な状況で推移しました。当社グループの主要なお客さまであるエレクトロニクス製造業、自動車関連・産業機器製造業では、全体な傾向として設備投資には慎重なもの、IT投資は積極的な姿勢が続いています。こうした中、当中間期の売上高は137億5百万円(前年同期比 9.8%増)となり、3期連続で中間期過去最高を更新しました。これは、主力の電気設計システムが全世界で販売を伸ばし、基板設計ソリューションの売上が伸ばしたことに加え、ワイヤハーネス設計システムと国内子会社の建築業向け3Dソリューションが堅調に推移し、回路設計ソリューションが大幅な増収になったことも寄与しました。

利益面につきましても、売上高の伸長により、経常利益18億2千6百万円(同30.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は14億1千9百万円(同44.2%増)で、過去最高となりました。

### 今後の取り組みについて

当社グループでは、新たな成長に向けて新3カ年計画を策定し、2022年3月期に売上高320億円、営業利益37億円を目

指します。この達成に向けた重点戦略として、①「顧客基盤への着実な最新ソリューションの導入」、②「データマネジメント製品の拡販」、③「システム設計領域(MBSE)での“図研ビジネスモデル”確立」を推進します。MBSEについては、同分野のリーディングカンパニーである米国Vitech社を当社グループに迎え入れ、いち早くソリューション提供を開始しました。ますます複雑化、多様化するモノづくりにおいて、今後も最新技術を統合したソリューションを世界中に提供することで、企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆さまには、今後も一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長  
金子 真人



# システムズエンジニアリングの図研!

MBSE\*のリーディングカンパニーVitech社の図研グループ加入が、図研のソリューションにどのような効果を与えるのか。その結果、世界の製造業が直面するどのような課題を解決できるのかについて、Q&A形式でご説明します。

## Q1 | Vitech社のグループ入りで 図研の事業はどう変わる?

図研のソリューション領域が製品の構想段階まで広がり、次世代のモノづくりに対する貢献度が大きく拡大します。

モノづくりは今、ますます複雑で難しさを増しています。時代のニーズを捉えた製品開発には、複数のシステムを適切に連携させることが必要になり、この傾向は今後さらに強まると考えられています。こうした新しいモノづくりに有効な開発手法として注目されているのがMBSEであり、この分野で25年以上の実績を持つリーダー企業がVitech社です。同社のMBSEツール「GENESYS」は業界トップクラスの実績を持ち、米国の航空・宇宙、自動車関連企業を中心に導入されています。Vitech社がグループ入りしたことで、図研はMBSEツールを

サポートする日本で唯一の企業となり、これまで提供してきたエレクトロニクス製品設計分野の品質・コスト・開発期間を最適化するソリューションに加え、製品構想段階でも有効なソリューションとサービスが提供できるようになりました。(稲石)

## Q2 | MBSEで次世代のモノづくりはどう変わる?

未経験かつ高難易度な開発においても、間違いのない製品を安全かつ高品質に開発することができます。

自動車業界が目指す自動運転のように、これまでにない、失敗が許されない新しい製品、サービス、インフラなどの複雑なシステムを開発しなければなりません。そのための手法の一つが、モデルを駆使(MB)して、システムズエンジニアリング(SE)を実行するMBSEです。SEとは、必要な機能や、性能の実現手段の探求のみならず、何を實現すべきか、そもそも開発目的は何かを明らかにすることを含む活動です。開発全体を俯瞰できるシステムズエンジニアが、活動の過程と結果を、各種の要求、振る舞い、

答える人

写真左 稲石 浩通 (プロセスイノベーション推進部 部長)  
写真右 David Long (Vitech Corporation President)

\*Model Based Systems Engineeringの略:電気・機械・ソフトウェアなど複数の専門技術者が共通認識できるモデルを使うことにより、さまざまな技術が複雑に関係し合うシステムの開発を上流工程で最適化する開発手法。

実現手段、検証項目などの要素として捉え、要素間の関係性も含め「システムの全容を表す図面」としてシステムモデルを作ります。その際に「GENESYS」というMBSEツールを活用することで、各分野のスペシャリストの協力を得て最適解を導き、確実に安全な開発を実現することが可能となります。(Long)

## Q3 | 現在のビジネスの進捗、今後予定しているコンテンツやサービス、目標とする事業規模は?

自動車関連企業や大手電気メーカーなど、MBSE導入に前向きな企業へアプローチし、「GENESYS」のファーストユーザーへのプロジェクトを開始しました。

MBSEの導入には、開発する製品・技術を横断した幅広い知見が必要になります。ところが、各社ともその人材確保に苦慮しているのが現状です。そこで、MBSE関連のコンサルティングや教育支援など、David LongをはじめとするVitech社のコンサルティングチームや、日本のパートナー企業と協調し、MBSEの導入・運用をサポートする体制を整備しました。また、

MBD (Model Based Design)コンサルティングを提供する新会社を設立し、アナリティカルモデルの設計支援体制も構築しました。このほか、「GENESYS」と図研製品との連携や新サービスの開発も推進しています。これにより、新3カ年計画で掲げた「図研ビジネスモデル」をいち早く確立し、新規事業で目指している売上高20億円の達成にも大きく貢献したいと考えています。(稲石)

Vitech社がこれまでソリューションを提供してきたのは、航空・宇宙など米国の政府案件が中心でした。それが今回、図研グループへの加入により、エレクトロニクス製品領域のグローバルなお客さまにもソリューションが提供できるようになりました。さらに、「GENESYS」と図研グループのあらゆる製品との連携を深めることで、構想設計から開発、製造、そして市場展開までの製品ライフサイクルすべてに関わることができます。この新たな環境を活かし、安全で速くて正確な製品開発はもちろん、新たなソリューションも開発して、お客さまの企業価値向上に貢献したいと考えています。(Long)

### 開発リソースのシフトに適合したビジネスモデルの構築



## 世界8カ国開催の最後を飾る横浜会場に、 過去最多、1,800名を超えるお客さまがご来場

激変するモノづくり環境に適合するための道標を示すトータル72のセッションを2日間で開催

図研グループのグローバルイベントとして定着している「Zuken Innovation World (ZIW)」は、本年も4月のアメリカ開催に始まり海外7カ国で実施された後、本拠地横浜において最大規模で開催されフィナーレを飾りました。海外企業4社、国内企業11社による事例発表、自動運転など先端的なクルマづくりや、解析技術を最大限に活かした電子機器開発手法をご紹介する特別講演、そして、図研からの製品ロードマップの発表などに、2日間で過去最多となる1,800名を超えるお客さまのご来場をいただきました。

4つの講演会場で開催した48のセッションに加え、体験型プログラムの「エクスペリエンス」12セッション、休憩時間を活用した「ホワイエセッション」も12のプログラムが実施され、トータルで72のセッションが実施されました。

IoT、AIなどを活用した最先端のモノづくりの道標を示すイベントとしてお客さまの満足度も高く、あわせて、異業種間を含む貴重な交流の場としても高いご評価をいただきました。



### 主なプログラム

※敬称略・講演順

事例をご紹介いただいたお客さま

#### 海外

- Viasat Inc. ● LG Electronics Inc. ● Continental Teves AG & Co. oHG
- OSRAM Continental GmbH

#### 国内

- 小糸製作所 ● ヤマザキマザック ● セムコ ● グローリー ● 日立製作所
- 京セラ ● 太陽誘電 ● 村田製作所 ● パナソニック デバイスSUNX
- ルネサスエレクトロニクス ● OKIプリンテッドサーキット

#### 特別講演

- 日産自動車 ● マツダ ● パナソニック インダストリアルソリューションズ社

#### アカデミックセッション

- 群馬大学大学院 白石洋一准教授 ● 静岡大学 浅井秀樹教授

# ZUKEN Innovation WORLD

最新の設計・製造技術、  
インフラ構築に関連する最新トレンドや  
図研のソリューション紹介、  
さらには、国内外のお客さまによる  
貴重な事例発表も実施しています。

開催日 2019年10月17日-10月18日  
会場 横浜ベイホテル東急  
来場者数 約1,800名

<https://www.ziww.jp/>



- ①入口からホワイエ周辺の様子
- ②講演、ワークショップとも好評を博したVitech社Long社長
- ③休憩時間のホワイエセッション
- ④体験型プログラムの「エクスペリエンス」
- ⑤懇親パーティーで挨拶する勝部副社長
- ⑥製品紹介展示ブース
- ⑦図研のEDA/PLMのビジョンを紹介する仮屋常務取締役EDA事業部長
- ⑧初日に講演したA&Mグローバル戦略企画担当 早乙女取締役
- ⑨IoT時代のプラント向け新ソリューションを紹介する大澤取締役A&M事業部長
- ⑩MBDを用いた自動運転システムについて講演する群馬大学 白石准教授
- ⑪シミュレーションへの人工知能の活用について講演する静岡大学 浅井教授
- ⑫図研のMBSEソリューションを紹介するプロセスイノベーション推進部 稲石部長
- ⑬開発現場でのMBSEの実践を解説するイノベティブ・デザインLLC 石橋CEO

四半期連結貸借対照表

資産の部

	当第2四半期 2019年9月30日現在	前第2四半期 2018年9月30日現在	前期 2019年3月31日現在
<b>流動資産</b>	<b>33,920,069</b>	<b>31,882,038</b>	<b>33,863,156</b>
現金及び預金	19,632,590	17,849,572	18,523,202
受取手形及び売掛金	4,260,924	4,425,977	5,870,720
有価証券	6,700,000	6,700,000	6,700,000
商品及び製品	365,396	266,738	345,764
仕掛品	282,730	240,636	109,325
原材料及び貯蔵品	3,014	3,856	3,761
その他	2,695,526	2,443,661	2,336,168
貸倒引当金	△ 20,113	△ 48,405	△ 25,786
<b>固定資産</b>	<b>14,520,586</b>	<b>13,698,220</b>	<b>13,327,811</b>
有形固定資産	6,314,046	6,364,402	6,244,812
建物及び構築物(純額)	2,812,792	2,838,005	2,782,237
土地	3,015,103	3,015,103	3,015,103
その他(純額)	486,151	511,293	447,471
無形固定資産	1,636,204	1,224,904	1,121,088
のれん	1,041,937	590,592	492,088
その他	594,267	634,312	628,999
投資その他の資産	6,570,335	6,108,913	5,961,910
<b>資産合計</b>	<b>48,440,655</b>	<b>45,580,259</b>	<b>47,190,967</b>

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

負債の部

	当第2四半期 2019年9月30日現在	前第2四半期 2018年9月30日現在	前期 2019年3月31日現在
<b>流動負債</b>	<b>9,748,648</b>	<b>9,215,757</b>	<b>10,116,979</b>
買掛金	663,223	754,545	827,244
未払法人税等	366,332	369,054	630,106
前受金	6,238,099	5,603,950	5,455,151
賞与引当金	877,567	853,794	846,582
その他の引当金	40,413	30,600	84,533
その他	1,563,012	1,603,812	2,273,360
<b>固定負債</b>	<b>4,198,248</b>	<b>3,953,050</b>	<b>4,023,931</b>
退職給付に係る負債	3,840,635	3,647,062	3,842,064
その他	357,613	305,988	181,867
<b>負債合計</b>	<b>13,946,896</b>	<b>13,168,808</b>	<b>14,140,911</b>
<b>純資産の部</b>			
<b>株主資本</b>	<b>32,083,573</b>	<b>30,141,017</b>	<b>30,990,177</b>
資本金	10,117,065	10,117,065	10,117,065
資本剰余金	8,659,034	8,659,016	8,659,016
利益剰余金	13,324,033	11,380,777	12,230,462
自己株式	△ 16,560	△ 15,841	△ 16,365
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>1,986,223</b>	<b>1,851,089</b>	<b>1,617,162</b>
その他有価証券評価差額金	2,442,512	2,208,283	2,022,397
為替換算調整勘定	△ 142,487	150,105	22,984
退職給付に係る調整累計額	△ 313,801	△ 507,300	△ 428,220
<b>非支配株主持分</b>	<b>423,962</b>	<b>419,344</b>	<b>442,715</b>
<b>純資産合計</b>	<b>34,493,759</b>	<b>32,411,450</b>	<b>33,050,055</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>48,440,655</b>	<b>45,580,259</b>	<b>47,190,967</b>

四半期連結損益計算書の要旨

	当第2四半期 2019年4月 1日から 2019年9月30日まで	前第2四半期 2018年4月 1日から 2018年9月30日まで	前期 2018年4月 1日から 2019年3月31日まで
売上高	13,705,971	12,477,423	26,787,267
売上原価	3,742,744	3,489,379	7,561,172
<b>売上総利益</b>	<b>9,963,227</b>	<b>8,988,044</b>	<b>19,226,094</b>
販売費及び一般管理費	8,184,443	7,688,094	16,175,918
<b>営業利益</b>	<b>1,778,784</b>	<b>1,299,950</b>	<b>3,050,176</b>
営業外収益	100,272	97,023	172,521
営業外費用	52,378	1,392	31,125
<b>経常利益</b>	<b>1,826,677</b>	<b>1,395,580</b>	<b>3,191,571</b>
特別利益	138,934	23,345	25,377
特別損失	2,678	861	116,642
<b>税金等調整前四半期(当期)純利益</b>	<b>1,962,933</b>	<b>1,418,064</b>	<b>3,100,307</b>
法人税、住民税及び事業税	479,100	385,140	1,003,689
法人税等調整額	64,550	40,200	△ 48,160
法人税等合計	543,650	425,341	955,528
<b>四半期(当期)純利益</b>	<b>1,419,282</b>	<b>992,722</b>	<b>2,144,778</b>
非支配株主に帰属する 四半期(当期)純利益	215	8,387	31,758
<b>親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益</b>	<b>1,419,067</b>	<b>984,335</b>	<b>2,113,020</b>

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

	当第2四半期 2019年4月 1日から 2019年9月30日まで	前第2四半期 2018年4月 1日から 2018年9月30日まで	前期 2018年4月 1日から 2019年3月31日まで
<b>営業活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>2,508,152</b>	<b>2,053,030</b>	<b>3,425,824</b>
<b>投資活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>△ 626,816</b>	<b>△ 876,802</b>	<b>△ 1,176,093</b>
<b>財務活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>△ 456,123</b>	<b>△ 302,178</b>	<b>△ 588,496</b>
<b>現金及び 現金同等物に係る 換算差額</b>	<b>△ 225,192</b>	<b>30,283</b>	<b>△ 132,610</b>
<b>現金及び 現金同等物の 増減額(△は減少)</b>	<b>1,200,020</b>	<b>904,332</b>	<b>1,528,624</b>
<b>現金及び 現金同等物の 期首残高</b>	<b>18,137,895</b>	<b>16,609,271</b>	<b>16,609,271</b>
<b>現金及び 現金同等物の 四半期末(期末)残高</b>	<b>19,337,916</b>	<b>17,513,603</b>	<b>18,137,895</b>

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

# 「Zuken Innovation World 2019」を 世界8カ国で開催。



**INDIA**  
バンガロール  
ハイデラバード  
プネー  
9/10-13



**JAPAN**  
横浜  
10/17-18



**U.K.**  
オックスフォード  
9/26



**SWITZERLAND**  
ルツェルン  
6/25



**U.S.A.**  
ヒルトンヘッド  
アイランド  
4/15-17



**FRANCE**  
マシー  
6/6



**GERMANY**  
フランクフルト  
9/30-10/1



**ITALY**  
ボローニャ  
6/11



図研グループのグローバルイベントとして定着している「Zuken Innovation World (ZIW)」を、本年も4月のアメリカに始まり、6月のフランス、イタリア、スイス、9月にインドの3都市に続き、英国、ドイツ、そして、10月の日本まで、8カ国で開催しました。最先端的な自動車づくりを目指す企業や、航空宇宙、産業機器、通信機器、半導体など幅広い分野からご来場いただき、各都市で盛会のうちに終わることができました。

なかでも、モノづくりの全体最適化を実現する最新の技術

であるMBSE(モデルベース・システムズエンジニアリング)の先駆的企業Vitech社が図研グループに加わったことに大きな反響がありました。モノづくりが複雑化、多様化する中で、ZIWでの開発計画の発表や、お客様の事例発表への関心は高く、また、懇親会などで業種を超えたお客様同士の交流が、従来にも増して活発でした。世界のモノづくり企業を成功に導くパートナーとして、今後も一層内容の充実を図ります。

## 会社情報 (2019年9月30日現在)

社名	株式会社図研 ZUKEN Inc.
設立	1976(昭和51)年12月17日
資本金	101億1,706万5千円
株式市場	東京証券取引所第一部
従業員数	417名 連結1,384名
平均年齢	43.6歳
URL	<a href="https://www.zuken.co.jp/">https://www.zuken.co.jp/</a>



本社・中央研究所

## 株主情報 (2019年9月30日現在)

### 株式の状況

発行可能株式総数	86,525,700株
発行済株式総数	23,267,169株
株主数	6,988名

### 株価推移(円)



## 役員

代表取締役社長	金子 真人
代表取締役副社長	勝部 迅也
常務取締役	仮屋 和浩
常務取締役	相馬 肅一
取締役	大澤 岳夫
取締役	早乙女 幸一
取締役※	佐野 高志
取締役※	荒井 洋一
監査役(常勤)	和田 扶佐夫
監査役※	尾崎 靖
監査役※	半田 高史

※は社外取締役および社外監査役です。

## 関係会社

図研テック株式会社
図研ネットウエイブ株式会社
図研エルミック株式会社
株式会社図研プリサイト
株式会社ダイバーシソク
図研アルファテック株式会社
Zuken GmbH ほか8社
Zuken USA Inc.
Vitech Corporation
Zuken Korea Inc.
Zuken Singapore Pte. Ltd.
Zuken Taiwan Inc.
Zuken India Pte. Ltd.
図研上海技術開発有限公司

## 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
金子真人	4,500	19.35
金子真人ホールディングス株式会社	3,240	13.93
GOLDMAN, SACHS & CO. REG	997	4.29
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	929	3.99
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE HCR00	798	3.43
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	754	3.24
日本生命保険相互会社	723	3.11
和田扶佐夫	690	2.97
金子みね子	580	2.49
BBH (LUX) FOR FIDELITY FUNDS PACIFIC FUND	477	2.05

注: 持株比率は自己株式(17,590株)を控除して計算しております。

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会の議決権 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
公告方法	電子公告 (当社ホームページ <a href="https://www.zuken.co.jp/e-koukoku/">https://www.zuken.co.jp/e-koukoku/</a> ) なお、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
1単元の株式の数	100株
証券コード	6947
株主名簿管理人 および口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同郵便物送付先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	 0120-232-711

### 住所変更、単元未満株式の買取のお申出先について

口座をお持ちの証券会社にお申出ください。なお、特別口座で株式が管理されている株主の方は、口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。

### 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。



株式会社 **図研** <https://www.zuken.co.jp/>

本社・中央研究所	〒224-8585 横浜市都筑区荏田東2-25-1	TEL: 045-942-1511(代)
センター南ビル	〒224-8580 横浜市都筑区茅ヶ崎中央32-11	TEL: 045-942-1300(代)
新横浜ビル	〒222-8505 横浜市港北区新横浜3-1-1	TEL: 045-473-6868(代)
関西支社	〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-2-28 堂島アクシスビル	TEL: 06-6343-1141(代)
名古屋支社	〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-23-20 HF桜通ビルディング	TEL: 052-950-3671(代)



この報告書は、環境に優しい植物油系インキを使用して印刷しています。